



～みんなかがやく 富田っ子～

富田っ子だより 第11号

富田小学校 学校通信
令和3年9月30日(木)



令和3年度 全国学力・学習状況調査結果から見えてきたこと

5月27日、6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果が8月31日に公表されました。この調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握・分析し、その改善を図るとともに、学校における子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。

このほど、校内での分析を終えましたので、結果から見えてきた本校児童の学力の傾向について概要をお知らせします。なお、この調査は、学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面であることをご理解ください。また、この結果が「あゆみ」(連絡表)に反映されることはありません。

【結果の概要について】

調査内容は、教科に関する調査(国語、算数)と質問紙調査です。教科に関する調査については、国語・算数ともに全国並びに県平均を上回る結果でした。以下に、教科及び質問紙から見えてきた本校の子どもたちの強みや弱み、弱みを克服するための授業改善や家庭学習の充実について取りまとめましたので、ご覧ください。

- ※教科に関する調査…実生活で常に活用できるようになっていることが望ましい基礎・基本となる知識・技能や
実生活の様々な場面に活用する力をみる内容
- ※質問紙調査…学習意欲、学習方法、学習環境、生活に関する内容

1 教科について

(1) 全国平均との比較及び本校の強み・弱み

<表記>

○全国平均と比較して	±1.0 未満	「ほぼ同じ」
	±1.0 以上 3.0 未満	「やや高い」「やや低い」
	±3.0 以上 10.0 未満	「高い」「低い」
	±10.0 以上	「かなり高い」「かなり低い」

【国語】

全体としては、全国・県平均を上回る高い結果となりました。「知識及び技能」では、言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率が高く、その中でも「漢字を文の中で正しく使う」「主語と述語の関係を捉える」の正答率は全国と比較して高い結果でした。一方、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」ことについては、全国結果をやや下回る結果となりました。

「思考力、判断力、表現力」では、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」のいずれも全国より高く、その中でも「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」の正答率は高い結果でした。また、「目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付ける」「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する」は全国結果より高いものの、正答率自体が全国的に大変低い結果となりました。

今回の調査結果から、「主語と述語の関係だけでなく、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割などについてさらに定着を図る必要があること」「文章と資料とを結び付けて必要な情報を見付けたり、全ての条件を満たして説明したりすること」にやや弱さが見られることがわかりました。



【算数】

全体としては、全国・県平均を上回るやや高い結果となりました。

学習指導要領の領域（「A数と計算」「B図形」「C測定」「D変化と関係」「データの活用」）や評価の観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」）など、どの分類から見ても全国の正答率を上回る結果となりました。

「知識・技能」では、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」「データを表に分類・整理することができる」の正答率は全国と比較してかなり高い結果でした。一方で、「三角形の面積の求め方について理解している」の正答率は、全国結果を大きく下回る結果となりました。

「思考・判断・表現」では、「平行四辺形について、図形の構成の仕方を捉えて面積の求め方と答えを記述できる」「集団の特徴をとらえるために、どのようなデータを集めるべきかを判断できる」は全国と比べかなり高い結果となりました。ただし、前者の平行四辺形についての正答率は、全国的に低い結果でした。

今回の調査結果から、図形についての理解に課題が見られました。特に、三角形の面積については、長方形（平行四辺形）の面積の $1/2$ であることが十分に理解できておらず、公式の活用方法が定着していないことがわかりました。



（２）授業改善及び家庭学習の充実

今回弱みとして明らかになった国語の内容については、国語の授業を中心に、主語と述語の関係や修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割など、言葉に着目させる指導を意識して行い、日本語を正しく読み解く力を育成していきたいと考えています。また、要旨をまとめたり要約したりする中で、重要な言葉を見付けて文章に入れられるようにしたり、条件に合った文章が字数制限内に書けるようにするなどの指導を継続して取り組んでいきたいと考えています。

また、算数の図形学習では、図形をかいたり、動かしたりするなどの算数的活動を取り入れながら内容理解を図るとともに、それぞれの図形の面積を求めるときの考え方について繰り返し復習するよう取り組みを進め、定着を図っていききたいと考えています。

今回、本校の子どもたちの弱みとして明らかになった内容を分析すると、国語・算数ともに決まった時期に指導を行う内容であることがわかります。そのため、学校で指導を行ってはいらぬものの、十分定着するまでには至っていないことが明らかになりました。この点から、今後は、限定した時期に取り扱う学習内容については、授業で既習内容を反復したり、朝の会や家庭学習などで県や市で作成されたワークシートなどを活用したりしながら定期的に復習に取り組ませ、定着を図っていききたいと考えています。

2 児童質問紙より（抜粋）について ○…全国平均より高い ▲…全国平均より低い

自分にはよいところがある	84.6% ○	休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた	76.9% ○
将来の夢や目標を持っている	86.3% ○	休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた	76.0% ○
自分でやると決めたことはやり遂げる	84.6% ○	人が困っているときは、進んで助けている	94.9% ○
国語の勉強は大切だ	98.3% ○	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	99.1% ○
算数の勉強は大切だ	94.9% ○	新聞を読んでいる	11.9% ▲

質問紙の調査結果から、ほとんどの設問の回答が全国と比べ高い結果でした。その中で、「自分自身に対して前向きに捉え、夢や目標を持って日々を過ごしている」「人の気持ちや立場を考えて行動し、よいと思ったことは進んで取り組むことができる」「学習に対して、学ぶことは大切だと感じている」「新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中でも学習を計画的に続け、規則正しい生活を送っていた」の項目で本校の子どもたちの強みが見られました。

一方で、「新聞を読んでいる」回答率は全国平均がかなり低い結果ではありましたが、本校はそれより低い結果となりました。毎年行っている保護者アンケートでも、家庭で読書に親しんでいる子どもが多くないことが本校の課題となっていますが、家庭における活字離れがやや心配される結果となりました。

学校では、これからも子どもたちの意欲を大切にしながら日々の教育活動の中で自己肯定感を高め、将来への夢や希望を持てるよう、今後もキャリア教育等に取り組んでいきたいと考えています。また、子どもたちの活字離れを改善できるよう、校内読書や図書館教育活動に一層力を注いでいきたいと考えています。ご家庭でもご協力いただきますようよろしくお願いいたします。